

## (14) 防災・安全教育研究会

会 長 今津 一志 (竹島小)  
副会長 武田 博文 (大用中)  
事務局 渡邊 章久 (中筋中)

### 1. 研究主題 「僕も君も助かる、実践的防災・安全教育」

### 2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
6月15日(月)	四万十市教育研究会 防災・安全教育研究会 役員会(研究主題設定、年間計画)	竹島小学校	会長、副会長 事務局参加
8月19日(水)	夏季研修会 ・講話・演習 「南海トラフ地震と防災教育」 講師：諏訪 清二特任教授(兵庫県立大学)	具同小学校	36名参加

### 3. 夏季研修会

1. 日 時 令和2年8月19日(水) 13:30~16:45
2. 会 場 四万十市立具同小学校 2階図書室
3. 日 程 ・開会行事 (13:00~13:10)  
・講話・演習 (13:40~16:30)  
・閉会行事 (16:30~16:45)

#### 4. 研修内容

講話 演題：「南海トラフ地震と防災教育」  
講師：諏訪 清二特任教授(兵庫県立大学)

#### (1) 講話：防災教育(学びのチャート)

	防災、減災の備え	災害発生時の緊急対応	復旧、復興
①知識技能	・自然現象(ハザード)のメカニズムを知っている。 ・過去の災害で得られた教訓を理解している。 ・災害別に備える方法を知っている。	・危険回避や避難行動に繋がる知識を持っている。 ・救出、救助、けがの手当て、心肺蘇生法、AED、怪我人の搬送、初期消火の知識と技能を持っている。	・避難所運営、ボランティア等の知識と支援に役立つ技能を持っている。
②思考、判断表現	・自分に降りかかる災害に対して、臨機応変に判断、行動できるようにしている。	・情報を収集し、臨機応変に判断して安全を確保することができる。 ・周囲の人を救出、救助することができる。	・情報を収集し、臨機応変に判断して周囲の人を支援することができる。
③学びに向かう人間性	・過去の災害で得られた教訓を学び、災害に強い社会の構築に繋げようとする強い意志を持っている。	・災害から身を守るために最善を尽くそうという意思を持っている。 ・自分が持っている知識、技能を使って周囲の人を助けようとする気持ちを持っている。	・被災して困っている人を支援しようとする気持ちを持っている。

## (2) 演習：防災教育の年間指導計画をつくろう

個人思考→グループ協議→発表

### 5. 参加者の感想（一部抜粋）

- ・演習をする中で、自校の防災教育について考えることができた。
- ・どこで地震に遭遇しても子ども達が自分の命を守り切れるよう、防災教育を推進していきたいと改めて感じた。
- ・地域のハザードマップを作成させる時に、危険な箇所ばかり目を向けさせるのではなく、地域の良い面にも目を向けさせて作成させることが大切であることがわかった。
- ・防災教育をする際に、いつか子ども達がこの地域に帰ってきたいと夢が持てるよう、心を耕しながら進めていきたいと思った。
- ・地域の避難経路をよく知り、子ども達と確認しておきたい。現在の学校ではハザードマップがつくられていないので、作成したい。
- ・東日本大震災を考えても、日頃の訓練、防災学習の積み重ねがとっさの判断、行動に繋がると感じた。無意識に体が動くよう、学習の積み重ねを大切にしたい。
- ・私の勤務校では、学校全体で定期的に一般的な避難訓練を実施しているが、実際にはその地域特有の問題や家族構成等の違いがあるため、生活環境に応じた訓練をしないといけないと思った。

### 4. 今年度の成果（○）と課題（●）

- 防災教育の年間計画を立てる中で、他校の防災教育の良さや、自校の課題について考えることができた。
- 防災教育と他教科との繋がりを考えて、全体計画を作成する大切さが理解できた。
- 普段から南海トラフ地震についての防災教育は実施しているが、ここ数年で頻発している水害に対す防災教育が不十分である。
- 児童生徒が主体的に考え、臨機応変に判断、行動できるような教育が不十分である。